

# VIVA TECH 2024 に参加して

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター  
理事長 市川 隆治

1. 5月22日～25日にパリで開催された VIVA TECHNOLOGY 2024 に参加した。これまで欧州ではヘルシンキの SLUSH やタリンの LATITUDE 59 に参加してきたが、さすが欧州最大規模を謳うだけあって、会場の広さや人の賑わいなどさすがの様相であった。公式発表では来場者 165,000 人ということで、一旦会場に入ると出口がどこか分からなくなるほどであった。
2. VIVA TECH の特徴としてよく指摘されているのはフランスらしくラグジュアリー企業が積極的にスタートアップ支援に乗り出しているということであるが、確かに LVMH や L'OREAL のブースは広さや位置や華やかさが他を寄せ付けけないという印象であった。その背景には伝統を引き継ぐだけでなく、革新的なイノベーションを常に取り入れていくというトップの DNA があるとされている。



3. 今年の Country of the Year は日本ということで、日本ブースはステージ 1 のすぐ近くに置かれ、起業家及び大企業ブースの他、内閣府のブースが置かれ、オープニングには岩田経済産業副大臣の基調講演も行われた。



4. 会場には様々な起業家や大企業のブースがひしめいており、とても全部は回り切れないので、実車や実機を展示している分かりやすいブースを中心に回った。

5. ドローンや空飛ぶクルマは実用化間近の最先端のイノベーションとして、また、将来的な活用範囲の広さから来場者の関心が高く、ブースには多くの人だかりができていた。左側が物流ドローン、WINGCOPTER、右側が空飛ぶクルマ、VOLOCITY であるが、後者は円形部分の直径が 11.3m と巨大なものでひと際際立っていた。大阪・関西万博でも活躍が期待されている。



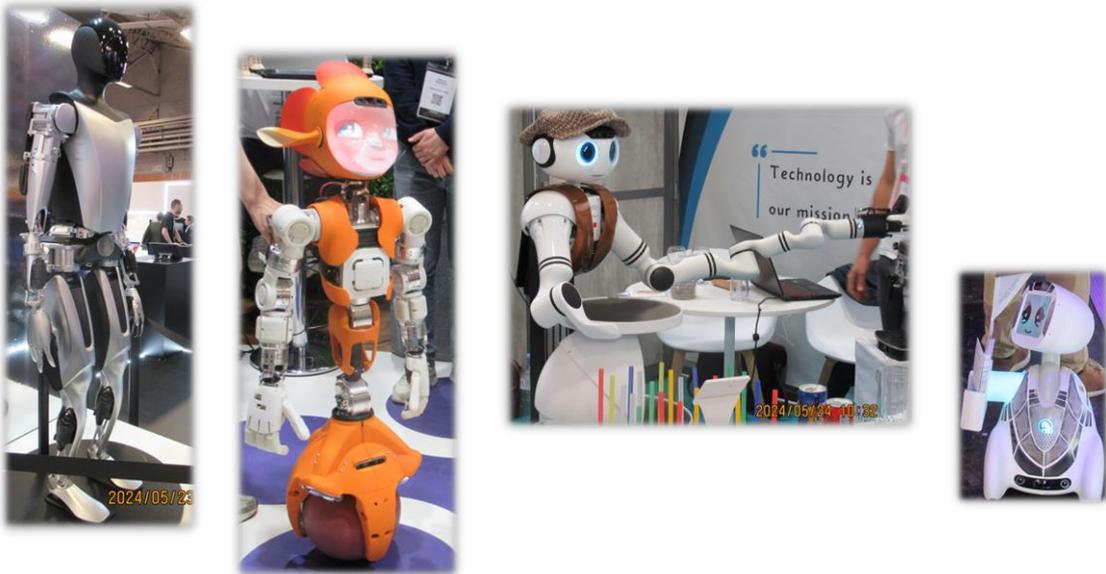
6. EV にも関心が高まっている。下の写真は Tesla 社の Cybertruck の前後からの写真である。同社は VIVA TECH には初参加で、かつ、これが Cybertruck のフランスでのデビューとのことであった。



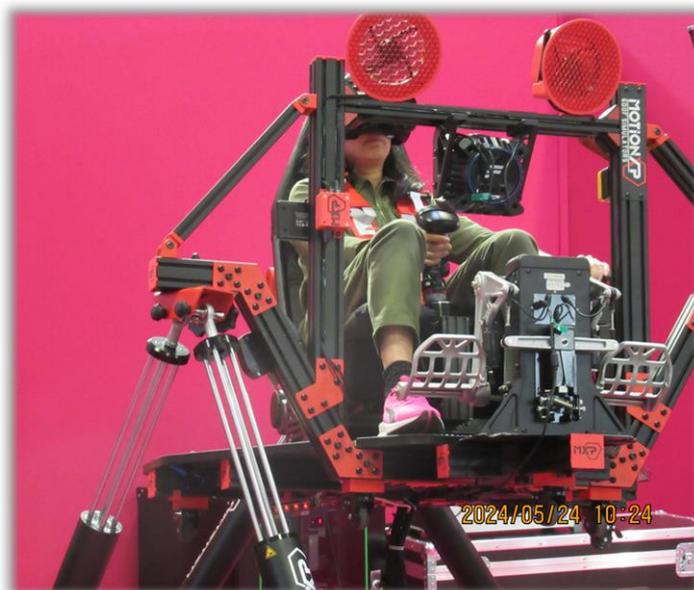
\*下の写真は会場の外で偶然見つけた EV の充電シーン。デパートの脇に設けられた充電スポットから電気の供給を受けていた。



7. ロボットも入場者の目を引いていた。特に左から2番目の写真は Enchanted Tools 社の Miroki で、顔にアニメを使うことで表情豊かになり、脚部に回転するボールを使うことにより驚くべき敏捷さを達成できているとのこと。これは既にラスベガス CES 2023 に出品後、東京でもデモを実施したとのこと。



8. 少し変わり種としては、DOF Reality 社の PC ゲーム用モーションシミュレーターがあった。通常のシミュレーター装置に比べ手ごろな価格でレーシングのカーブや振動体験、フライトモードでの飛行体験がリアルにできるとのこと。やや見えづらいが写真にあるようにゴーグルを装着して、その中でゲームの画面が広がっているとのこと。



9. また、SCEWO 社の階段を上り下りできる車椅子も目を引いた。乗っているのは一般の入場者でカメラを向けると陽気にVサインをしてくれた。しかし、車体が大きく重くなるのと動作が安全を意識してゆっくりにならざるを得ないところが今後の課題と見受けられた。



10. 最終日は恒例により一般の入場者が無料で入れる日ということで、フランス人を親に持つ若者がプロとしてゲスト出演していた。司会者が会場からゲームをしたい人を募るとあちこちから手が挙がり、司会者が選んだのが写真左手前の10歳の少年だった。キヤーキヤー言いながらなかなかの腕前を披露していた。



11. ここまで会場の様子を紹介してきたが、実は今回私は全く異なる調査をしてきた。それはフランス政府が進める起業家支援プログラム、“PÉPITE”、Pôle étudiant pour l’innovation, le transfert et l’entrepreneuriat がフランス人、特に若い人たちにどれほど浸透しているか、そして特に地方の人たちにパリの Station F がどれほど知られているのかの調査である。

当初どちらも知らないと答え、しかも「ペピット」の綴りはと聞かれたのには驚いた。ところが徐々にそれなら知っているという回答も増えていき、さらに、教育系の起業家ブースではあったが、両方とも自分が参加したことがあるとの回答も出てきて安心した。地方の起業家でこれからパリに進出するという人は Station F は知っているし、期待していると言っていた。

“PÉPITE”については参加は大学生に限られ、高校生は参加できないと回答した人と、高校生も参加しているとの回答もあった。これはそれぞれの地方拠点の方針の違いということかも知れない。我が国においても中高生からの起業力学習が重要と常々警鐘を鳴らしてきたが、その声や政策が若い人たちにどれほど浸透しているかは、フランスにおいてもこの通りあまねく知れ渡っているわけではないとの実態があったわけで、ましてや日本ではよほど周知徹底する手段を講じなければならぬだろうというのが今回の調査の結論である。